

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.

⑫公開特許公報(A)

昭54—42833

⑬Int. Cl.²
E 06 B 7/22識別記号 ⑭日本分類
89(2) A 41府内整理番号
7635—2E

⑮公開 昭和54年(1979)4月5日

発明の数 1
審査請求 有

(全 4 頁)

⑯屋外設置用ポリクスの防雨装置

⑰特 願 昭52—110118

⑱出 願 昭52(1977)9月12日

⑲発明者 泉村健一

門真市大字門真1048番地 松下
電工株式会社内

同 水野武和

⑳発明者 空章夫

刈谷市一里山町東吹戸11番地
片山工業株式会社内

㉑出願人 松下電工株式会社

門真市大字門真1048番地

㉒代理人 弁理士 石田長七

門真市大字門真1048番地 松下
電工株式会社内

明細書

1. 発明の名称

屋外設置用ポリクスの防雨装置

2. 特許請求の範囲

(1) 可撓性を有するパッキンをポリクスの開口部全周囲乃至扉の全周囲の少くとも一方に取付け、パッキンの全外周に水切り溝を凹設し、パッキンを介して扉にてポリクスの開口部を気密的に密閉して成ることを特徴とする屋外設置用ポリクスの防雨装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、可撓性を有するパッキン(1)をポリクス(2)の開口部全周囲乃至扉(3)の全周囲に少くとも一方に取付け、パッキン(1)の全外周に水切り溝(8)を凹設し、パッキン(1)を介して扉(3)にてポリクス(2)の開口部を気密的に密閉して成ることを特徴とする屋外設置用ポリクスの防雨装置に係るものであつて、その目的とするところは水切り溝のコストダウンを計った屋外設置用ポリクスの防雨装

置を提供するにある。

従来の屋外設置用ポリクスの防雨装置にあつては第1～6図に示すようにポリクス(2)の開口部全周囲より断面L字状の箱水切り部(10)を前方に突出し、扉(3)の内面にパッキン(1)を貼着し、扉(3)を閉じたときパッキン(1)が箱水切り部(10)全周に当たるようになっていた。しかし、かかる従来例にあつてはパッキンを扉に貼着しているので塗装をやり直すようの場合にパッキンの取外しが面倒であり、取外した後再使用ができず、また箱水切り部のL角を薄接しなければならず箱水切り部の折曲げ加工、仕上げを含めて手間とコストがかかるという欠点があつた。

本発明は叙述の点に鑑みてなされたもので、つて以下本発明を実施例により詳述する。第1図に示すようにポリクス(2)の開口部周囲より前方に折曲げ部(4)を突出し、第2図に断面を示すようにポリクス(2)の開口部全周囲に可撓性を有するパッキン(1)を着脱自在に取付け、パッキン(1)の全外周に水切り溝(8)を凹設し、パッキン(1)を介して扉(3)に

てポツクス(2)の開口部を気密的に密閉する。

また別な実施例として第3図に示すようにパツキン(1)の固定部(1b)でパツキン(1)と板バネ(5)とを一体とし、ポツクス(2)の開口部周囲を板バネ(5)で弾性的に挟んで固定し全外周に水切り溝(8)を有するパツキン(1)の固定強度を増してもよい。また別の実施例として第4図に示すようにポツクス(2)の開口部周囲の端部を一定間隔を置いて前方、後方に交互に略90度折り曲げたポツクス(2)の開口部全周囲に全外周に水切り溝(8)を有するパツキン(1)を取り付け、または別金具を接続してポツクス(2)の開口部周囲に前方及び後方に向かって突起を突出したポツクス(2)の開口部全周囲に全外周に水切り溝(8)を有するパツキン(1)を取り付け、パツキン(1)の固定強度を増してもよい。また別な実施例として第5図に示すようにポツクス(2)の開口部周囲をパツキン(1)で覆い、パツキン(1)をネジ、リベット等の固定具(6)でポツクス(2)に固定し、パツキン(1)の全外周に水切り溝(8)を凹設してもよい。また別な実施例として第6図に示すようにポツクス(2)の開

特開昭54-42833(2)
口部周辺に切り出し(7)を設け、又はポツクス(2)の開口部周辺に突起を設け、全外周に水切り溝(8)を有するパツキン(1)の固定強度を増してもよい。また別の実施例としてポツクス(2)の開口部周辺に孔をあけ、パツキン(1)には突起を設け、孔にパツキン(1)の突起がひつかかるようにして、全外周に水切り溝(8)を有するパツキンの固定強度を増してもよい。また別な実施例として第7図に示すようにパツキン(1)の固定部(1b)のポツクス(2)の外面と接する部分にポツクス(2)の開口部に沿って水切り溝(8)を設け、毛細管現象により雨水がポツクス(2)の開口部周囲よりポツクス(2)内に侵透するのを防止してもよい。また別の実施例として第8図に示すようにポツクス(2)の開口部全周囲にパツキン(1)を取り付け、パツキン(1)の全外周に複数本の水切り溝(8)を凹設してもよい。また別な実施例として第9図に示すように扉(3)の端部に折返し(9)を設け、扉(3)の全周囲に亘って折返し(9)の端部に可搬性を有するパツキン(1)を着脱自在に取付け、パツキン(1)の全外周に水切れ溝(8)を凹設し、パツキンを介して

扉(3)にてポツクス(2)の開口部に気密的に密閉してもよい。また別の実施例として第10図に示すように前面全体が開口したポツクス(2)にあつてはポツクス(2)の側壁及び上下の檻の端部にパツキン(1)を取り付け、パツキン(1)の全外周に水切り溝(8)を凹設してもよい。また別の実施例として第11図に示すようにポツクス(2)にパツキン(1)を固定し、扉を開じたときにパツキン(1)と扉(3)の接するパツキン(1)の部分の中央に長手方向に亘ってパツキン(1)に水切り溝(8)を設け、扉(3)を開じたとき扉(3)とパツキン(1)の間に空洞を生じさせ、毛細管現象により雨水が扉(3)とパツキン(1)の間より侵透するのを防止してもよい。また以上の実施例を組合せて用いてもよい。

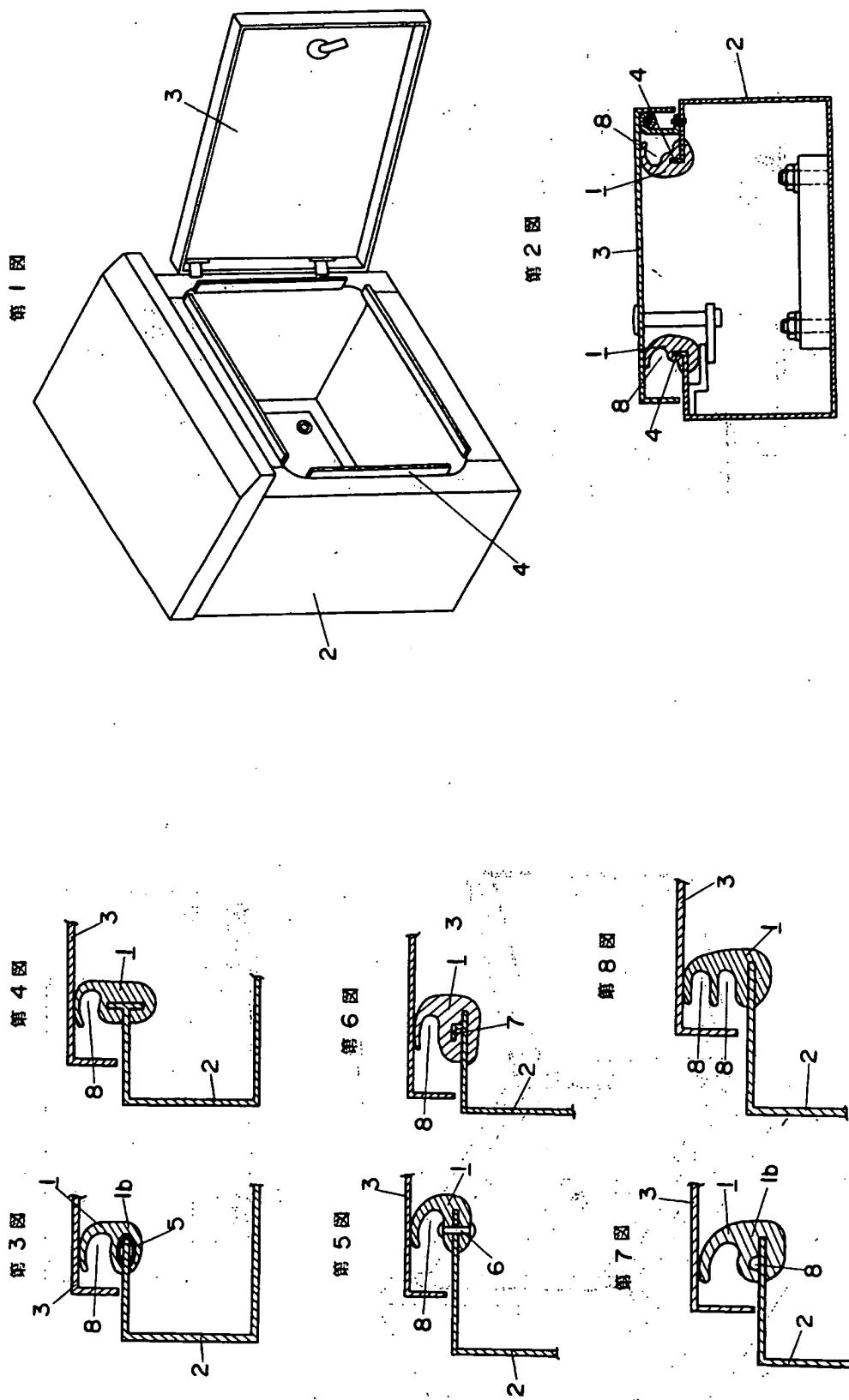
本発明屋外設置用ポツクスの防雨装置は叙述の如く、可搬性を有するパツキンをポツクスの開口部全周囲乃至扉の全周囲の少くとも一方に取付け、パツキンを介して扉にてポツクスの開口部を気密的に密閉するので、ポツクスの開口部の全周にわたって気密防水構造とすることができるのみな

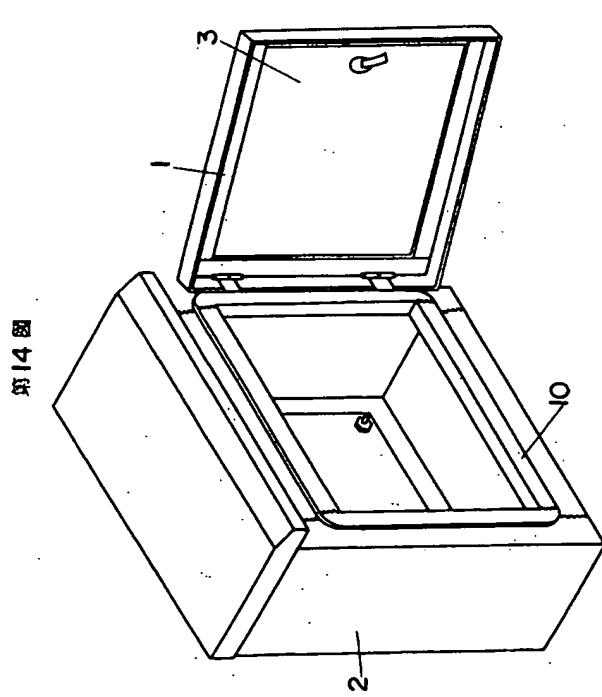
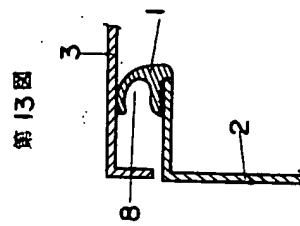
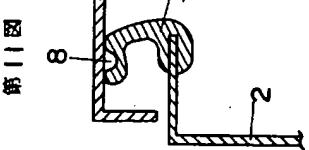
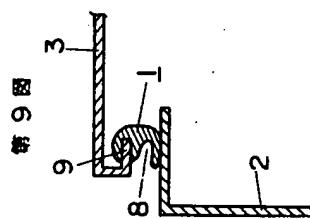
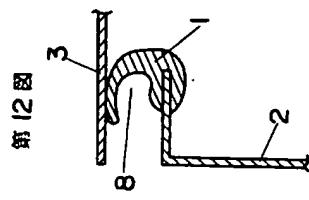
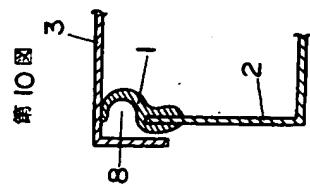
らず、パツキンの全外周に水切り溝を設けてあるので、ポツクスの外で水切りが確実にでき、ポツクスに水切り溝を設けた場合のように水切り部の折り曲げ加工、接続、仕上の必要がなく、構造が簡単でコストダウンを計ることができるものである。

4 図面の簡単な説明

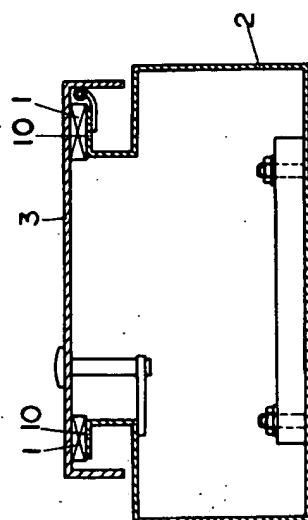
第1図は本発明屋外設置用ポツクスの防雨装置の一実施例を示す斜視図、第2図は同上の下方より見た断面図、第3図より第13図まではそれぞれ別な実施例を示す断面図、第14図は従来例を示す斜視図、第15図は同上の下方より見た断面図であつて、(1)はパツキン、(2)はポツクス、(3)は扉、(8)は水切り溝である。

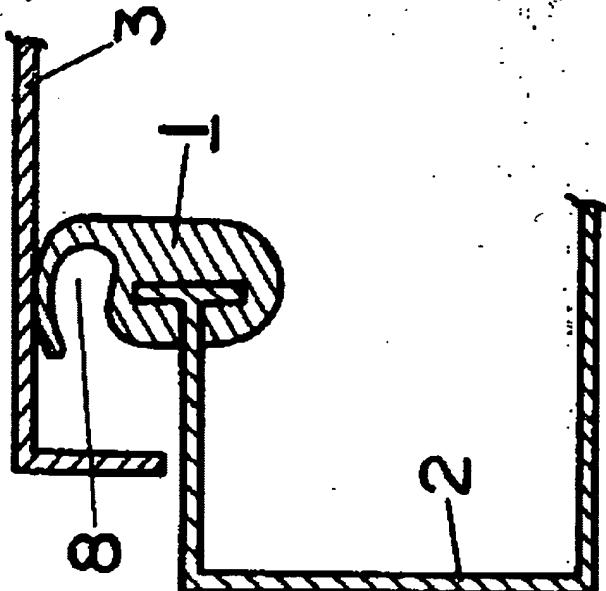
代理人弁理士 石田長七



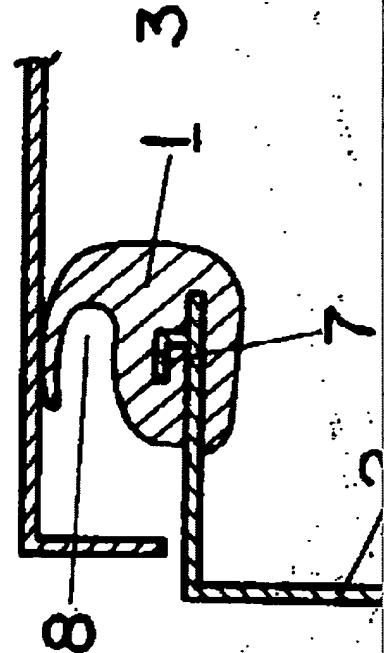


第15図





四
六
總



卷之三

